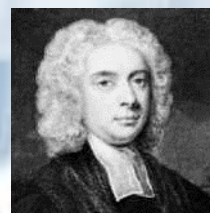


科学研究費「基盤研究（C）」（研究課題番号 19K01571 代表者：有江大介）による研究集会

第 13 回バトラー研究会のお知らせ



今回の研究会ではメンバーの大久保正健氏（杉野服飾大・元）によるバトラーの主著 *The Analogy of Religion* (1736) についてと、ゲストの太田浩之氏（一橋大・院）によるバトラーとスミスの関係についての報告をおこないます。

日時：2021年11月28日（日）13:30–17:30（いつもより30分早く開始します）

方法：Zoom 会議により開催（ホスト：松本哲人・北海道教育大・研究分担者）

・トピック（会議名）：第13回バトラー研究会

・ミーティング URL、ミーティング ID、パスワードは開催当日午前中にメールにて配布

★ 研究会メンバー以外にも公開しますので、参加希望の方は以下にある「参加登録フォーム」に記入をして **開催日前日（2021年11月27日・土）までに送信** してください。

<https://forms.gle/CtQGTLZVdyV7FpcVA>

第1報告：「バトラーの『類比』」 大久保正健氏

『宗教の類比』（あるいは『類比』）という簡略なタイトルで呼ばれるバトラーの主著の表題は、*The Analogy of Religion, Natural and Revealed, to the Constitution and Course of Nature*（自然の構成と運行に基づいた自然宗教と啓示宗教の類比）である。今回の報告では、このタイトルと本書の記述内容を手掛かりに、類比の論理がバトラーの神学をどのように使用され、その結果としてどのような体系が提示されているか、ということをご概観する。

第2報告：「ジョゼフ・バトラーとアダム・スミスの比較分析」 太田浩之氏

本報告の主題は、ジョゼフ・バトラーとアダム・スミスとを比較するための、いくつかの論点を提示することである。バトラーとスミスとの関係を主題とした研究はこれまでにほとんど展開されていないが、このことは、両者の間に密接な関係を想定することができない、ということをも必ずしも意味するわけではない。本報告では、バトラーとスミスとの関係を分析する際に着目すべき論点を提示することで、両者の関係を複数の観点から考察することが可能であると論じる。

——プログラム——（司会：有江大介）

13:30–13:45 本日のプログラムの説明、並びに参加者の自己紹介

13:45–13:50 発表者紹介

13:50–15:20 第1報告「バトラーの『類比』」および質疑・討論

15:30–17:00 第2報告「ジョゼフ・バトラーとアダム・スミスの比較分析」および質疑・討論

——（第13回研究会はここで終了）——

17:10–17:30 研究会メンバーによる執筆に向けての現況の相互確認と今後の方針・スケジュールの確認
（モスナー翻訳本出版の著作権の件、共同論文集（日・英）の出版社打診の現況など）